

2. ワークショップについて

1) ワークショップの概要

兵庫県下の被災5地域で行われた地域別および総括ワークショップの実施状況は、以下のとおりである。

・テーマ

「復興10年で、被災地ができたこと、できなかったこと、将来に生かしていくべきことは？」

・参加者

高校生以上の各地域在住、在学、在勤者（公募）

・進行体制

全体総括 立木 茂雄（同志社大学文学部 教授）

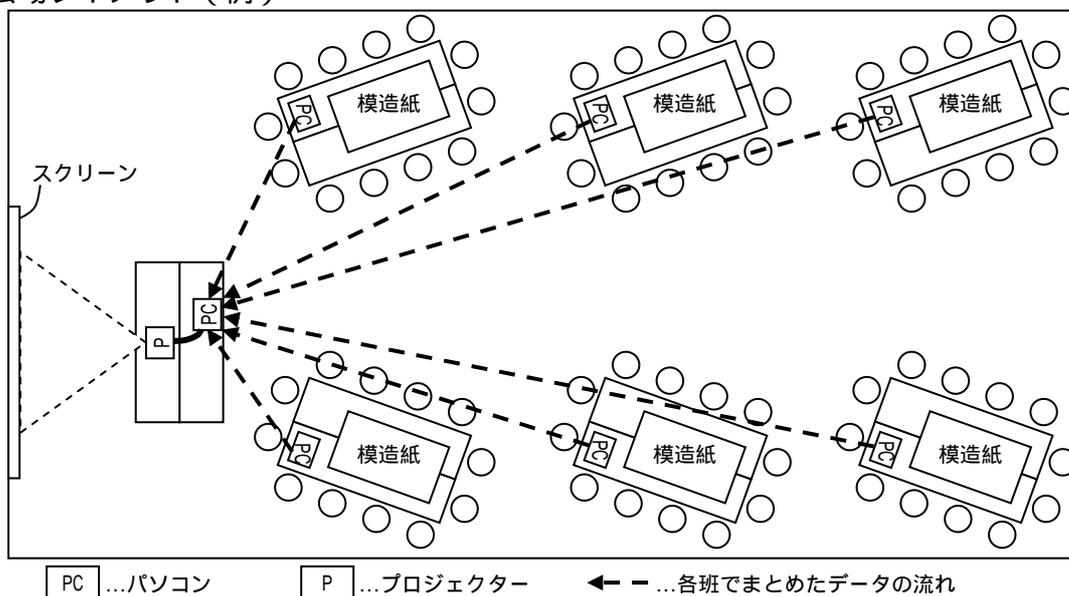
進行役 黒宮亜希子（同志社大学大学院生）、吉原 誠（株式会社 コー・プラン）

班の進行 同志社大学文学部3回生

・開催状況

日時	開催地域	会場	参加人数	班の数
平成16年6月5日（土） 14：00～17：00	淡路	東浦町立 サンシャインホール	42名	5
平成16年6月6日（日） 10：00～13：00	阪神北	宝塚市西公民館	44名	6
平成16年6月6日（日） 14：30～17：30	阪神南	西宮市民交流センター	44名	6
平成16年6月12日（土） 10：00～13：00	神戸	県立神戸学習プラザ	53名	6
平成16年6月20日（日） 14：00～17：00	明石・三木	明石市立 産業交流センター	45名	6
平成16年7月4日（日） 14：00～17：00	総括	人と防災未来センター	51名	5

・会場レイアウト（例）



2) 地域別ワークショップの進め方について

淡路、阪神北、阪神南、神戸、明石・三木での地域別ワークショップは、参加者が会場に来られた順番に班を振り分け、以下の手順で行った。なお、各班には、同志社大学文学部3回生の学生が数名入り、班の作業の進行のお手伝いや出された意見をノート型のパソコンに入力するという作業を行った。

・ステップ0：「ワークショップとは？」

最初に、ワークショップとはどのようなものか、どのように進めるかを簡単に説明し、参加者の緊張をほぐすため、アイスブレイク（フリップ式自己紹介）を行った。

「フリップ式自己紹介」とは、テレビのクイズ番組を応用したものである。まずA4サイズの色紙を参加者に1枚ずつ配り、それを2つ折りにし、記入できる面を4つ作る。次に、全体の進行役



班ごとでの自己紹介の様子

が、出した質問に参加者が回答者として自分の答えを記入する。そして、一斉に自分の前にかかげ、班の中で順番に自己紹介をしていくというものである。

今回の質問は、「お名前、どこから来たか」、「おにぎりの具といえば?」、「私ってこんなヒト?」であり、班そして会場の雰囲気をもたせることが目的である。

・ステップ1：「10年間を振り返って」



出された意見はパソコンに入力していく

まず参加者全員にカードを3枚ずつ配る。県民として「復興10年で、被災地ができたこと、できなかったこと」をカード1枚につき1つのことを書いてもらう。3枚のカードは、すべて「できたこと」でも、「できなかったこと」でもかまわないし、3枚で足りなければさらに書いてもらった。

全員がカードを書き終わったら、班内で1人1枚ずつ読み上げながら、模造紙の上に置いてい

く。この際、出された意見は、1枚ずつパソコンに入力していく。また、出された意見で同じような内容のものは、近くに集めて、最終的にできあがったグループごとに内容をわかりやすく書いたタイトルをつけていく。

このようにしてできあがった班ごとのまとめを班の代表者が発表しながら、会場全体で意見を共有する。



自分たちの班で出された意見を発表する

・ステップ2：「将来に向けて」

ステップ1と同様に参加者にカードを3枚ずつ配る。このステップでは、県民として「被災地が将来に向けて生かすべきこと、世界に向けて発信していくべきこと」を書いてもらい、ステップ1と同様に、班内で発表した意見は、パソコンに入力しながら、まとめていき発表を行った。この段階になると、ほとんどの人が打ち解け活発に意見が出るようになった。



代表者による会場意見のまとめ

また、この作業と並行するかたちで、ステップ1の発表者に前に出てきてもらい、会場前面にプロジェクターで映し出したステップ1での各班のまとめを見ながら、会場全体の意見としてまとめあげていく作業を行った。

・ステップ3：「まとめ」



全員が参加して意見をまとめる

ステップ1のまとめは各班のステップ1の発表者が行ったが、ステップ2のまとめは会場全体で行った。会場前面にプロジェクターで映し出されたステップ2の各班のまとめを見ながら、進行役の同志社大学 立木 茂雄 教授とともに意見を出し合い、同じ内容の意見をまとめて、内容をわかりやすく表したタイトルをつけて地域のまとめをつくりあげていった。

その後、参加者に丸シールを配り、ステップ1、2のまとめそれぞれについて5つずつ重要と思われる意見を選び、順位付けを行った。



ステップごとのまとめにシールを貼っていく

・最後に

ステップ1および2のまとめをプリンターで打ちだし、参加者全員に配布した。また、総括ワークショップに出席する地域の代表を参加者の中から各班2名ずつ選び、ワークショップを終了した。

3) 総括ワークショップの進め方について

各地域の代表者が集まって開催した総括ワークショップは、地域ごとに班を編成し、以下の手順で行った。今回も地域別ワークショップと同様に、各班に同志社大学文学部3回生の学生が数名ずつ入り、班の作業の進行のお手伝いおよびパソコンへの入力作業を行った。

・ステップ0：アイスブレイク

最初に参加者がリラックスし、ワークショップに望む雰囲気を高めるために、地域別ワークショップと同様にフリップ式自己紹介を行った。質問項目は、「お名前、どこから来たか」、「お味噌汁の具は?」、「私ってこんなヒト?」の3つである。

・ステップ1：各地域の成果の確認(『10年間を振り返って』)

まず自分たちの地域のまとめと模造紙に貼られているカードを見ながら、誤字や抜けている項目がないか確認した。また、カードの内容と分類されているグループのタイトルでおかしいものがあれば、修正した。修正された内容は、各班のパソコン上でデータへ反映した。



各地域での修正作業の様子

・ステップ1.5：全地域のまとめ



旗を使って項目のタイトルを全員で検討した

次に各地域で行った全体のまとめを会場全体、つまり全地域で行った。各地域のパソコンで修正されたデータを1つのパソコンに集約し、そのデータをプロジェクターで会場前面に映し出しながら、同じような意見はまとめて、タイトルをつけるという手順で行った。

・ステップ2：各地域の成果の確認(『将来に向けて』)

・ステップ2.5：全地域のまとめ

ステップ2および2.5については、テーマを『将来に向けて』とし、ステップ1および1.5と同様の手順で、カードの見直し、修正などを行い、それをパソコンのデータに反映し、1つのパソコンに集約、会場全体でのまとめという手順で行った。



重要と思われる項目5つずつ投票を行った

最後に、ステップ1.5および2.5で作成した全体のまとめで重要だと思われる項目を5つずつ選び、丸シールで順位付けを行った。